

令和6年度第1回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和6年8月21日（水）10:00～12:00
- 会 場 ピュアリティまきび 3F 白鳥の間（岡山市北区下石井 2-6-41）
- 出席者 <委員（五十音順）>
米谷会長、赤木委員、居原田委員、坂本委員、泉水委員、
鳥越委員、長尾委員、三宅委員、山口委員、山本委員
※委員15人中10人の出席であり、本審議会は成立
- <事務局>
環境文化部：大熊環境文化部長、坂本文化スポーツ振興監、
矢吹参与（おかやまマラソン担当）、
宮野参与（国民スポーツ大会担当）、
村上国民スポーツ大会推進室長、
山本スポーツ振興課長
子ども・福祉部：藤本障害福祉課総括参事
教 育 庁：片岡保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・パリオリンピックでは本県出身の岡 慎之助選手が体操団体総合・個人総合・種目別鉄棒で金メダル、平行棒で銅メダルを獲得し大変な注目を浴びている。8月28日からはパリパラリンピックも開催され、岡山県からも初出場するアーチェリーの大江選手をはじめ3人の選手が出場予定であり、応援したい。岡山にゆかりのあるアスリートが、国内はもとより世界で活躍することは、競技の枠を越えて、岡山でスポーツに関わる人々、県民も含め、大きな喜びと励みになる。
- ・部活動の地域移行、中学総体の種目見直し、国民スポーツ大会のあり方の見直し等、スポーツを取り巻く環境が変わって行く中で、どうスポーツ振興を図るか、生涯スポーツとして取り組んでもらうか、競技力を高めていくかが大きな課題であり、しっかりと取り組んでいく。
- ・本日は、県スポーツ推進計画の進捗状況についてお諮りする。第2次岡山県スポーツ推進計画の目標に掲げるスポーツ立県おかやまの発展を目指し、忌憚のないご意見を頂戴したい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2023 年度実績）について

資料 1

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①基本施策 I

多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出関係
(会長)

「1 週間の総運動時間数 60 分未満の児童生徒数の割合」「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒数の割合」「新体力テストにおける総合評価 C 以上の児童生徒の割合」について、中学校 2 年生女子の数値が悪化しているが説明してほしい。

(保健体育課長)

- ・新体力テストの数値を活用して分析している。また、国が行う全国体力・運動能力・運動習慣等調査で生活習慣などを含めて分析している。中学校 2 年生の女子は、例年同様の傾向で改善が見込めていないが、小学校のうちから運動が好きな児童を増やし、運動習慣を身につけ、体力の向上につなげるため、今年度から小学校に体育専科を導入して、運動が好きな児童を作っていこうと取り組みを進めている。
- ・「1 週間の総運動時間数 60 分未満の児童生徒数の割合」は、全国体力・運動能力・運動習慣調査の中で、体育の授業を除くとなっており、週 3 時間は中 2 の女子も体育の授業がある。また、学校によっては通学のことを入れてない場合もあり、通学は徒歩か自転車だが、その時間を含んでいない場合もある。

(委員)

「成人男女の 1 週間に 1 日以上運動・スポーツする割合」の目標値が 55 %に対して、直近が 37.1%であり、昨年度より下がっているが、どのような調査で運動・スポーツの定義がどうなのか、数値を目標値に近づけるために県としてどんなことをすればよいと考えているのか。

また、委員の方も数値を高めるアイデアがあればアドバイスしてほしい。

(スポーツ振興課長)

県民満足度調査の項目として挙げている。

運動・スポーツとは、例えばウォーキング等の活動も含むと考えている。

ランニングや球技等のしっかりした活動をしないとイケないイメージが

あると思うが、1日30分のウォーキングでも運動・スポーツと認識していただけるようにまいりたい。

(委員)

30分のウォーキングが運動・スポーツだと明確に分かるようにしたり、定年退職された方が気軽に運動・スポーツをするための情報にアクセスできるよう周知したり、知り合いの方と一緒にやる簡単な運動・スポーツを周知するなど仲間を増やす取り組みも有効だと思われる。

(委員)

- ・赤磐市は100歳体操を健康体操とし取り入れており、ボランティアとして携わっていますが、今では86チーム約1000人が行っている。
毎週1回集まり100歳体操することから始まって、老人会で今度ディスク大会があり、その練習をしようと老人が集まるのが楽しくなっている。
- ・集まるのが楽しく、自分の健康のためによいと、年齢が高い人が頑張り外へ出て行くことが嬉しいと皆さんに伝えている。

(委員)

国民衛生の動向では1日30分以上と明記している。国の統計と合わせた方がよいのではないか。

(委員)

中2女子は過去から課題となっており、小学校からやっといこうということで、みんなでチャレンジランキング・体力アップマイベストチャレンジ・体育授業エキスパート派遣事業について、どのようなことをして、どのような成果をあげているか。どのような運動好きが育っているか。

(保健体育課長)

- ・みんなでチャレンジランキングというのはゲーム感覚で運動遊びを行い、それがネット上で他校・チームと競争ができるような形にしている。
例えば長縄跳び、これをクラスで実施し、30回跳び、ネットに上げると、まずは1位30回となる。他校が50回跳びネットに上げると、1位が50回になる。ネット環境を活用し皆で楽しみながら、校内だけでなく、広く県内の子供たちと競い合えるような、仕掛けをしている。その他パスラリーなど様々な運動遊びを準備している。
- ・新体力テストを活用し、自分で目標を設定して、例えば、握力と長座体前屈が苦手な子がこの2種目を自分が立てた目標設定し、自己記録の更新を目指し、それによって県がバッジを贈呈するという仕掛けをしている。
単に新体力テストをするのではなくて、子どもたちが自分達で課題を見つけ、自分達で取り組んで、目標を達成できるような取り組みを行っている。
これを各学校単位でご協力いただけるように周知をしている。
- ・体育授業エキスパート派遣事業について、小学校の先生で体育専科が岡山県ではまだ少ない現状ある。体育の授業をどのようにしたらいいのか疑問に思われることもあるため、県教育委員会の指導主事が学校を訪問し、体

育授業の進め方等を先生方にお伝えする取り組みである。

- ・資料の 11 ページに令和 4 年と 5 年の比較があり、令和 6 年も手元に資料はないが伸びている。今後もしっかり周知をしてまいりたい。

(委員)

体育授業エキスパート派遣事業は体育が苦手な先生もいると思うが、先生が好きになることは必要であるので、引き続きお願いする。

(委員)

気候が変動しているが、熱中症対策はどうか。

(保健体育課長)

- ・暑さ指数が 31 を超える場合は、運動は禁止と各学校に周知をしている。
これがグラウンドに指数計がある場合と体育館に指数計がある場合等で変わってくるため、グラウンドではできないが、体育館では運動できるということもある。また、暑すぎてプールができない現状もある。子どもたちの安全を考える上では、暑さ指数が 31 を超えた時には、原則運動を中止することとしている。
- ・市町村では、学校では暑さ指数が 31 を超えなくても、各市町村で指数が 31 を超えたら、全ての部活動を中止としているところもある。
- ・いかに安全に運動しながら、子どもたちを守るか考えているところである。

(委員)

- ・障害のある方の移動等については、以前に比べたら周りの方々の協力を得たり、支援をしてもらっているが、誰でも使いやすいユニバーサル化をお願いする。

②基本施策Ⅱ

アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

(委員)

「アスリート就職支援事業」による県内就職内定者は、令和 5 年度については 4 人であるが、企業の採用枠・採用数・給料は決まっているか？

(スポーツ振興課長)

- ・スポーツ協会でも企業の開拓をしている。
- ・紹介をする形で企業とスポーツをされる方とのマッチングを図っており、採用の枠とか数は決まっていない。
給料の詳細はそれぞれの企業によるが、企業の社員として雇っている。

(委員)

スポーツ協会のようなところが採用してくれたらよい。スポーツに専念出来るように構築してほしい。

(委員)

4 人であっても競技者が岡山で就職していることには意義があるし、それとは別にトップクラブチーム等にも選手がきてくれている。

(委員)

岡山県に競技者が帰ってこられて、将来にわたり生活できて、選手が残れるよう、岡山県として施策を推進してほしい。

(委員)

- ・陸上競技でやっていきたいという選手を、いろいろな企業に紹介したが、基盤が東京で、練習環境やコーチも必要で、所属は岡山の会社でという選手の場合、特にコーチも必要となると、採用する会社としては、難しい部分もあると感じた。会社で働いている実績が無いと、他の場所・練習環境を望まれると難しいところがあると感じた。
- ・実業団でも大学で練習することが多くなっている。

(会長)

この事業ではマッチングを通して、いろいろなレベルの選手がいて、企業とアスリートの結び合わせが出来て岡山に帰ってきてもらって、岡山で活躍していく一つの道である。個人・選手であり指導者と一緒に、例えば競技団体・受け入れる企業・スポーツ協会が一体となって環境づくりをするのは、ひとつのきっかけとなると考える。

(スポーツ振興課長)

このアスリート就職支援の目的としては、国スポや全国大会を目指す選手が、岡山に帰ってこられるよう、就職支援促進をしていくための事業である。

なお、岡山県内に複数あるトップのクラブチームへの入団・就職の数は入っていない。

(環境文化部長)

- ・競技団体やスポーツ協会が雇うというのは限界があって、収入の財源確保が難しい。
- ・この事業は、アスリートを採用してもいいですという企業に登録してもらい、マッチングにより紹介して話を進めるものだが、企業の努力によるところが大きく、どれだけ競技に会社として力を注いでいただけるかは、我々もすぎるしか無いのが現状である。
- ・パリオリンピックアーチェリー代表の中西選手は、CR 物流に採用されて全面バックアップされている。また、新たにアーチェリーの選手1人加入して、コーチの方も一緒にいられる。そういった企業が少しでも出てくれればありがたい。地元岡山で競技・練習をしても、世界にでられることが、他の企業にも広まって、また興味を持っていただけるよう、我々も周知・広報していきたい。

(会長)

これから我々一丸となって環境作りをしていかないといけない。

③基本施策Ⅳ

スポーツ環境の整備関係

(委員)

- ・定年退職した知り合いが、陸上競技をやりたいけど、どこでやればいいのか分からないということで、陸連関係者に相談をしたことがある。
このような人が結構いるようで、ここに行けば、こんなことが出来るというようなものがあったらよい。
- ・高齢者でも競争することが楽しい人が多いし、体を動かすようなところをしてあげるとよい。

(スポーツ振興課長)

- ・スポーツに関する情報につきましては、岡山スポーツナビがあって、例えば、活動しているクラブの紹介や指導者等の情報を掲載しており、周知を図るとともに、情報について充実させていきたいと考えている。
- ・様々な大会は、各競技団体が把握していますので、スポーツ協会等にお尋ねいただくことも必要かと思っており、スポーツ協会から各団体の方へ繋いでいくことも出来ると思うので、場を広げることを進めていければと考えている。

(委員)

- ・岡山スポーツナビの更新頻度を上げて欲しい。
情報が更新されておらず、検索してもヒットしない。探しやすさ、更新頻度をあげて欲しい。
- ・出来る所を探して、吉備中央町からヒップホップをしにくる高齢者もいる。
- ・こんなことがあったよとブログまでいかなくても、簡単に目につくものがあってもよい。

(スポーツ振興課長)

広報の仕方や、見ていただけるよう情報を広げていき、新しいものを入れ、スポーツナビの充実に力を入れていきたい。

(会長)

情報をクロスオーバーさせて、繋がっていれば情報が入ってくる。継続的に発信していかなければ情報が入ってこなくなる。

(委員)

- ・事業評価シート資料7ページの3スポーツ振興課に乳児期における運動体験の充実のためとありますが、乳児期は、0～2歳ごろををさす。
乳児期の運動体験を実施するために、幼児期（3、4、5歳）や児童（小学生）を対象とした教室を派遣するのは反対というか、乳児期という言葉は誤っているため、表現方法を改めてほしい。
- ・2 保健体育課の課題について、学校体育実技指導資料をより有効に活用す

るためにと書いてあるが、この資料を活用することが目的になるのは、表現として誤っていると思う。

各園における運動遊びのさらなる充実を図るために、この運動指導書を有効に活用して運動の研修会を開き、たくさんの園を増やしていくのであれば分かる。

(スポーツ振興課長・保健体育課長)

ご指摘のとおりであり修正させていただく。

4 フリーディスカッション **資料2**

テーマ

「地域におけるスポーツ活動について」

■事務局説明（スポーツ振興課長）

(スポーツ振興課長)

- ・将来を踏まえた中長期的な観点で議論することを基本とし、令和元年度から実施している。
- ・自由にご意見や思いを発言いただき、前向きな議論や情報交換の場となるようにしたい。

■フリーディスカッション

(会長)

- ・第2次県スポーツ推進計画の実効性を高めるうえでも、様々な角度からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・NPOのスポーツクラブに関わっているが、練習会の参加者が増えてきた。
コロナ禍の3年は大きく、そのときに運動をしなくなり、億劫になっている方や、小中学生時代に運動制限があり、運動の仕方や体の動かし方について、体育以外でなかなかスタートがきれない方がいると感じる。
- ・コロナ禍で学生時代を過ごした選手は、友達の作り方もネットやSNS上の繋がりとなっており、会って会話するという部分が、高校卒業しても、コミュニケーションの取り方に慣れてないと感じる。
スポーツを通じて、若者がコミュニケーションをとる環境づくりが必要と感じる。今の時代SNSを活用しながら、体を動かす環境づくりが若者には必要と感じる。仲間作りから体を動かすのも有効で、仲間とウオーキングの練習をしたりするのもきっかけとしてよい。
- ・県総合グラウンドでも、犬の散歩・ウオーキング・ラジオ体操をする方も増えている。きっかけづくり、場所、こういうことしますという提案があれば、多くの方が外へ出て体を動かすことが出来ると感じる。

(会長)

仲間がいたら、外出する動機になり、楽しく出来る。

(委員)

約束するといかざるを得ない。

(委員)

- ・熱中症対策もあり、暑いと外に子どもを出せない状況がある。プール等を楽しみにしていても、教室で過ごすこともあり、逆に外で遊べるときが待ち遠しくなり、子どもたちが楽しんで外に出ていると感じる。
- ・コロナ禍があったことで、行事の見直しがされた面もある。
例えば夏祭りだが、以前は学校職員が皆で手伝いをしていたが、コロナと働き方改革もあり、地域に任せることが多くなった。地域でも数年ぶりに開催するので、中心でやってきた人が変更して、考え方も変わり、地域の人が自分達でボランティアをしてくれ、地域の人の方が本当にありがたいと感じる。
- ・祭り以外でも、おかやまマラソン・ゲートボール・ペタンクなど声を掛けあい行っている。地域が主導でやるのが長く続く秘訣だと思う。
- ・学校としては、スポーツ離れもあり授業の楽しさを更に追求する必要がある
- ・地域の方の熱い思いや、残す行事をどのように子ども達からお年寄りまで、出てもらえるよう工夫していくことが生涯スポーツに繋がると考える。

(委員)

- ・チョコザップが流行っていて気軽に出来る。
スポーツウエアに着替えないといけないとか、何かをしないといけないとなるとハードルがあるが、例えば、この服のままで良ければハードルを下げる事が出来る。気軽にできれば携わりやすい。
- ・1人だとなかなか難しいので、誘ってくれれば始めやすい。そこに何か競う要素があると良い。アプリで仲間を募って、誰かと競争できて、ポイントになるとか、そういうものが何かできたらいい。
8千歩程度歩くのが成人の目安だが、ただウォーキングしようとしても、なかなか出来ないの、手軽にアプリで出来て、仲間と競う要素を組み合わせればよい。私も歩数をアプリで管理すると数字で確認でき継続して行える。こういう仕掛けが大事だと思う。
- ・スポーツで地域が繋がることも多くて、スポーツがあるからいろいろな人たちと繋がりができて地域が盛り上がる。私も祭りのイベントの事務局をやっているが、スポーツを介した人との繋がり、この人と一緒に何かをしているという太い繋がり、そういった地域を繋ぐものの一つがスポーツだと思う。

(委員)

- ・子供たちが一種のスポーツに特化しない方がいいと思う。様々なスポーツを経験し、様々なことを覚えて、自分に合ったスポーツを見つけることが大事

だと思う。

- ・e スポーツがスポーツなのか疑問である。e ゲームという呼び方であれば理解できるが、家に入らないと出来ないものがスポーツなのか。e スポーツがこれからどうなるのか気になっている。

(会長)

オリンピックでは、海外選手と言葉は通じないが、友達のように接することが出来て相手と分かり合える。同じ苦しみや楽しさを体験し、体を使った運動を通じたお互いの共通理解になっていると思う。

身体を介するものがスポーツの本分であり、コミュニケーションをとることや、仲間と一緒に行動することが重要になり、そういう機会を提供するため、行政は場所や行事・集団・情報を提供している。

(委員)

- ・大学生のスポーツの大会で、大学生主催だが暑さ対策をしっかりと行っており、途中で暑さ指数が上がると、休憩時間を長くとったり、昼食時間をしっかりとったり、試合は一日1試合と決めたり、主催者の学生たちが考えて運営されていた。試合中の休憩時間にも離れて喋らなければ日陰で休憩をとってよいというルールであったり、これからの時代に大切な力だと感じたし、仲間と一緒に成長していく姿が見られた。
- ・今は熱中症予防対策に対していろいろなグッズがあり、首に巻いたり、飲み物もありますし、上手に利用しながら、それも考えて動いており、生きるための大切な力であると感じました。
- ・負けたチームが勝ったチームに氷を渡して帰ったり、スポーツの勝敗の数値には表せない学生達の心の成長も見ることができ、自分の体を守り、自分の体を知るとか、自分の体の限界になったらやめるとか、そういう部分はしっかりと指導者から小中高と教育を受けてきたのだと感じた。
- ・幼児教育では小学校の体育科と関連しますが、「健康」という保育内容がある。運動・自分の体を知る・食育・安全・感染症等の内容があり、乳幼児期から子どもたちへ教えることが大事だと思います。小さい頃の良い指導者や小中高の先生の役割は、重要なのだと思う
- ・スポーツはなぜするのかについては、脳にいいからと学生たちには言っている。0歳の子どもから高齢者の方まで大事なものだと思っている。

(委員)

これまでのスポーツ振興は学校が大きな役割を担ってきたと思うが、これからは学校に過剰に依存しない姿勢が大事である。スポーツには仲間と協力すること、ルールを守る大切さ、相手を思いやる気持ち、コミュニケーション能力の育成等いろいろな価値がある。それを伝えるのが学校の先生だけじゃ

なく、地域の指導者が、地域の子供たちにそれを大人として伝える姿勢が大事である。各地域でのスポーツ推進委員の方々のファシリテートによるスポーツを通じた学びとか、地域の方が関わる子どもの成長といったものをそれぞれの地域においてやっていくことが大事である。

これまでのスポーツ考えたときに学校の区切りが、スポーツの区切りということがあったが、地域ということになると、そこに住んでいるので、学校を卒業した瞬間から運動をしなくなったのではなく、地域でスポーツをして、スポーツを通じて地域と繋がるという発想で取り組みが行えばよいと思う。

(委員)

- ・地域におけるスポーツ活動ですが、障害のある方も活動をしているが、まだまだ充分に出て行くことが出来ない状況だ。一緒にスポーツをやる時に障害のある方への過度な対応はいらないが、基本的なことは知ってもらうことが大切だと思う。
- ・小中高校でパラスポーツ体験の希望があり車いすバスケやボッチャが大人気だ。障害者スポーツの支援とスポーツ振興を目的に学校へ行くと子ども達がボッチャ知っていると元気に手を挙げてくれ興味を持ってくれている。
- ・パリでハラリンピックがありますが、オリンピックと同じような競技があります。少し使う用具が違ったり、車いすで走ったり、投てきの重さが違ったりするぐらいです。競技数 22、種目は 500 以上と障害クラスによって競技を行うので、オリンピックより種目数は多くある。
- ・障害を受けてスポーツまで復帰できない方もたくさんいる。
どこにいけばいいのか。どうすればいいのか分からないので、テレビの情報でもいいですし、いろいろな情報をヒントとして教えてあげたら、もっと地域で障害のある方や一般の方が、みんなと一緒にできると思っている。

(会長)

ダンス・ヒップポップ・スケボー・フリークライミング・ブレイキン等いろいろな若者が活躍している。

部活動と地域連携の推進とともに、若者たちが欲しているものを、彼らと一緒に喜びを与えることも大事である。

趣味・趣向を捉えた上で、スポーツ推進委員・学校・地域と連携することが必要である。

5 報告事項 資料3

(1) 令和6年度オリンピック・パラリンピアン育成事業強化指定選手について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(2) パリ 2024 オリンピック岡山県ゆかり選手の活躍について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(3) 岡山県県民栄誉賞について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(4) 岡山県スポーツ特別顕彰について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(5) おかやまマラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局参与）

資料に沿って説明

(6) 第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会（ショートトラック・フィギュア）・アイスホッケー競技会について

■事務局説明（国民スポーツ大会推進室長）

資料に沿って説明

6 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・長時間にわたるご審議に感謝する。
- ・アスリートの就職支援、障害者や高齢者のスポーツの環境作りや情報提供のあり方、体を動かすことの楽しさ、スポーツを通じたコミュニケーション環境作り・きっかけ作り、地域主導や人との繋がり的重要性、気軽さと競争の要素を組み合わせる、子どもに多様なスポーツに関わりを持ってほしい、安全対策、スポーツの価値、若者の価値に対する理解等、いただいた貴重なご意見を参考とさせていただきたい。
- ・一度でも経験しているスポーツは見ても楽しい。ルールや難しさが実感でき、それが人生の豊かさに繋がる。